

池上本門寺を歩く (東京都大田区)

日蓮聖人入滅の地に建立された「法華経」布教の殿堂



仁王門(三門)/池上本門寺でもっとも重要な区域に入るための門。お会式の万燈がくぐれるよう初層の天井が高く造られている。

大堂(祖師堂)/日蓮聖人御尊像を安置。昭和39年(1964)再建。旧大堂は徳川吉宗公。その前の御堂は加藤清正公のご寄進であった。



日蓮宗大本山 池上本門寺
住所◆東京都大田区池上1-1-1
電話◆03-3752-2331
交通◆東武池上線「池上駅」から徒歩10分、都営浅草線「西馬込駅」南口から徒歩12分、JR京浜東北線「大森駅」から池上駅行きバス(20分)「本門寺前」下車徒歩5分
※境内はいつでも無料でご覧いただけます。
観音殿の開門時間・拝観料は4ページをご覧ください。



日蓮聖人御廟所/中央の八角堂の中に日蓮聖人の墓塔が安置されている。池上本門寺の最聖所。昭和54年(1979)の建立。



五宝塔/日蓮聖人の御遺体を茶毘に付した霊地に建つ。文政11年(1828)建立。この形式の塔としては最大のもの。木造。重文。



日蓮聖人説法像/宗祖七百年遷忌記念として昭和58年(1983)に奉納されたもの。北村西望作。高さ3.4メートル、重さ1トン。



五宝塔/徳川秀忠公の寄進により慶長13年(1608)建立。関東では最古の五宝塔。初層が和様、二層以上は唐様で造られている。高さ31メートル。重文。

日蓮宗の開祖・日蓮聖人がその波瀾万丈の生涯を閉じられた霊跡に創建された池上本門寺。その広大な境内には日蓮聖人御廟所をはじめ、桃山期に建立された関東最古の五重塔や寺宝を納めた雲雲殿など、見所がいっぱい。



ご案内いただいた
池上本門寺 執事
梅本明宏さん

御入滅の霊場に安置される
生身・孝道・示現の御尊像

身延山の草庵に籠られた日蓮聖人は、弟子・信者の育成や著述に専念されていましたが、弘安5年(1282)ともなると、その体調は厳しい身延山の冬に耐えられないほどに悪化していました。

常陸の温泉で療養することを決められた聖人が、山を下りられたのは9月8日のこと。そして、武蔵国池上の郷主・池上宗仲の館に到着したのは、9

月18日のことだといわれています。

聖人はここで療養を続けられましたが、10月13日の辰の刻(午前8時頃)に入滅されたのです。

熱心な法華信者で「大機越」(経済的な支援を行った信徒のこと)であった池上宗仲は、聖人の死を悲しみ、「法華経」の文字数(6万9千384文字)にちなみ約7万坪の土地を寄進しました。これが池上本門寺のはじまりです。

池上本門寺は正しくは長栄山大院本門寺といいますが、これは「法華経」の道場として長く栄えるように」という折りを込めて日蓮聖人がつけられたものです。

池上本門寺を訪れると諸堂の立派さに驚きますが、かつてはさらに壮麗だったといえます。案内してくださった執事の梅本明宏さんは、こう説明してくれました。

「加藤清正公が慶長11年(1606)に寄進された大堂は間口が25間ありました。今の堂は15間なので倍近くですね。床下が高く、清正公が兜をかぶったまま通ることができたといえます」

この大堂に安置されているのが、聖人七回忌の際に造られた生身・孝道・示現の御尊像と呼ばれる祖師像です。

「御像が持つお札には聖人の御母堂の髪が使われています。聖人は生涯母の恩に感謝しておられました。この御像はそうした聖人の孝の道を、参詣者に